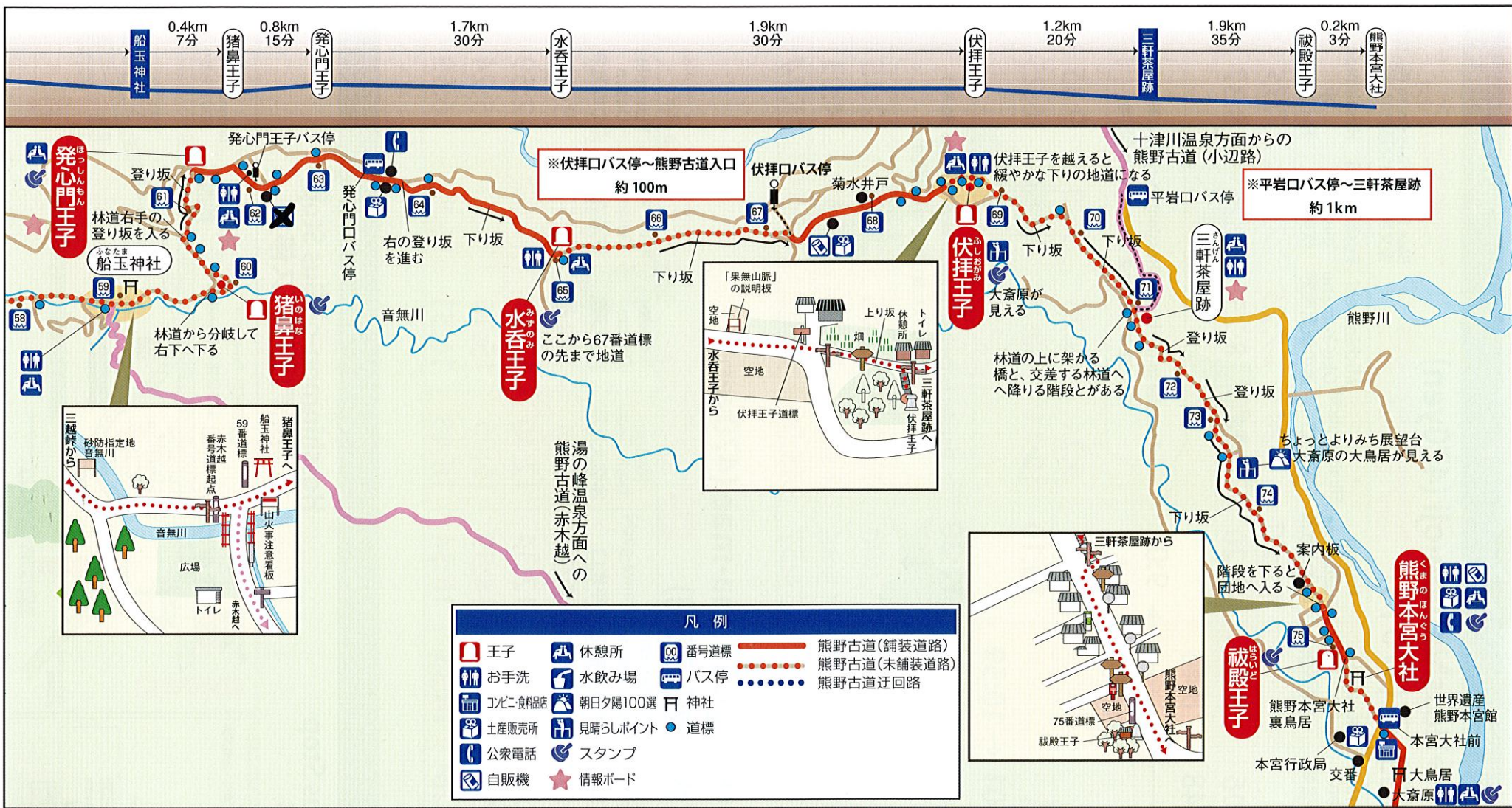


発心門王子→本宮大社

● 走行距離 約7キロ
● 標準歩行時間 約3時間

コースの長さ



王子社とは、熊野権現の御子神を祭った神社であり、目的地の本宮大社への道しるべの役割がありました。

- 発心門王子
- 水呑王子
- 伏拝王子
- 三軒茶屋跡
- 祓殿王子
- 熊野本宮大社
- 大斎原

かつて大きな鳥居があった場所です。「鳥居をくぐる事で、仏道に帰依しようとする心が芽生える」という意味から「発心門」といいます。格式高い五体王子の一つです。

廃校の跡地に緑泥片岩の石碑があります。そばには腰痛を治してくれると言われている「腰痛地藏」もあります。

昔人々は、苦労重ね古道を踏破し、眼下遙かな熊野川と音無川の出合う森の中に熊野本宮大社を初めて目にした時、感激のあまりにひれ伏して拝んだといわれています。人々の感動の思いが、「伏拝王子」の由来となったと言われています。

江戸時代、三軒の茶屋があったそうです。旅の終わりに間近となり、人々は一休みしてから本宮大社まで向かいました。休憩所の屋根の形は三軒の屋根を模しています。近くには小辺路（高野山へ続く古道）を行く人々からの通行料を徴収していた「九鬼ヶ口関所」が模式的に再現されています。関所を通る際には通行手形と通行料が必要だったそうです。

長かった道中の塵や埃を払い、身なりを整えて熊野本宮大社へお参りする「禊の場」でした。

全国に約5000社ある熊野神社の総本山の一つです。元々、熊野川の中州であった現在の斎原の場所にありましたが、明治22年の大水害により現在の場所に移築されました。熊野へのすべての参詣路は信仰の中心であるこの本宮を目指したと言われています。

かつて熊野本宮大社があった場所です。二基の石祠が建てられ、左側に中四社下四社を、右側に境内摂末社の御神霊をお祀りしています。